

献身的な功勞に感謝の意を込めて



亀岡市自治振興式典を開催

11月3日、長年にわたり市政の推進と発展に力を注がれた人や、善意の寄付をいただいた皆さんを表彰し、感謝の意を表す場として「平成26年度亀岡市自治振興式典」を、ガレリアかめおかで開催しました。式典では、女声コーラス「五月会」の美しい歌声と菊のやさしい香りが会場を包む中、栗山市長が「市政

の発展と市民福祉向上のための献身的な功勞に対し、9万2千市民を代表して深甚なる敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます」と式辞を述べました。

その後、受賞者を代表して市政功勞者表彰を受賞された木戸邦考さんが「私たち受賞者一同は、この度の受賞を契機に、今後も一層の自己研鑽に励み、ふるさと亀岡のさらなる躍進のため努めてまいります」と謝辞を述べられると、約400人の出席者から大きな拍手が贈られました。また、生涯学習の振興に貢献された人をたたえる「第14回生涯学習賞」の受賞者が発表され、「生涯学習ゆう・あい賞」「千登三子賞」は、初代の

- 平成26年度自治振興式典表彰者 (敬称略・順不同)
◆篤志者
亀岡保津川ライオンズクラブ/宗教法人 大本/亀岡ライオンズクラブ/山本 和夫/亀岡左官業協同組合/福知 潤子
◆市政功勞者
<行政分野>
小川 博/山口 俊一/江見 覺/小田 博子/俣野 ちづる/木曾 成子/宮本 千恵子/金子 義雄/田中 義雄/山脇 英富/大谷 俊定
<福祉・医療分野>
大西 智史/安部 幸子/大良 正子/谷村 雅弘/後呂 絵美/中川 智弘/成内 巧一/(故)奥村 珠江/藤田 幸彦/植村 正敏/佐藤 俊之/岩森 正光/西田 幸弘/畑 幸樹/平田 正弘
<文化・スポーツ分野>
山内 照義/西村 禮子/八木 浩二
<経済産業分野>
奥村 幸江/木戸 邦考/吉田 範郎/谷口 卓
<環境保全分野>
石田 紀郎
◆感謝状贈呈者
かめおか市民活動推進センター 平成25年度末登録73団体/国際ソロプチミスト亀岡/株式会社 京都銀行/上田 賢/亀岡地区西部自治会/堤製・三煌・サンケイ特定建設工事共同企業体(株堤製作所、株三煌産業、サンケイ都市建設株)/株式会社 安藤工業所/千代川小学校PTA/大井小学校PTA/亀岡市立幼稚園建設工事安全衛生協議会(関口建設株、株古谷組、株前平電機、株黒川)

内閣府男女共同参画局長を務められるなど、長年にわたり女性の教育と地位向上などに大きく貢献された坂東眞理子さん(昭和女子大学学長)に贈ることになりました。また、「生涯学習共生賞」は、天然記念物アユモドキの保全と生息域の拡大に向け、地域の先導役として活動を



生涯学習ゆう・あい賞「千登三子賞」を受賞される坂東眞理子さん

展開されている「亀岡市保津地域アユモドキ保全協議会」(亀岡市)に、「生涯学習奨励賞」は、地理的要件を超えて国内外に交流を広げ、青少年の健全育成、地域の活性化に寄与された「いしがき青少年少女合唱団」(沖縄県石垣市)に贈ります。各賞贈呈式と坂東さんの記念講演は、来年3月8日(日)、第73回コレレージユ・ド・カメオカ(ガレリアかめおか)で行いますので、皆さんぜひお越しください。

~あつまれ亀友! わくわく☆ドキドキ広場!!~
みんながタイミングを合わせてフラフープの持ち上げに挑戦
いっばい友達が出来た!

11月1日から2日にかけて、市の教育施設「若木の家」で、亀岡市子ども会育成連絡協議会による「あつまれ亀友! わくわく☆ドキドキ広場!!」が開催されました。異なる年齢の子どもたちが、レクリエーションなどを一緒に楽しむことで、自ら考え主体的に判断する能力を培ってもらおうと、ともに、人を思いやる心や正義感など豊かな人間性を育ててもらおうと毎年開催されています。また、この体験で得たことを子ども会などの団体活動で生かし、次代

のリーダーとして活躍してくれる人材を養成することも目的としています。今回の体験には、市内在住の小学校4年生から中学校3年生までの44人が参加。6つの班に分かれ、みんなでタイミングを合わせるゲームをしたり、班対抗でリレーを行うなどチームワークを高めた後、参加者全員で遊び友達の輪を広げました。兄妹で参加した並河晃平さん(京都学園中学校2年生)は、「他の学校や年齢の違う友達がたくさんでき、楽しかったです。みんなで力を合わせることや、相手の立場に立つて考えることの大切さを学べました」と笑顔で話していました。

第三百五十九回
ふるさと亀岡の名品⑧
文化財めぐり
国分寺本堂(市指定文化財)
国分寺は、741(天平13)年、聖武天皇の発願により、全国の国府所在地に建立された、僧寺と尼寺からなる寺院です。
当時は、農作物の不作、戦乱や疫病でたくさんの方が亡くなるなど、世の中が乱れた状態でした。
聖武天皇は仏教の力で、なんとか平和にしようと、鎮護国家を目指しました。丹波の国には、亀岡市の千歳町国分に丹波国分僧寺が、
河原林町河原尻に丹波国分尼寺が建立されました。
平安時代には栄華を極めますが、天正年間(1573~92年)の明・智光秀の丹波進攻の頃には、丹波国分寺は焼失荒廃したと伝わっており、元禄年間(1688~1704)に再興されました。
現在残る本堂は護勇比丘により建立されたもので、棟札や小屋梁に残る寄進札から、1774(安永3)年に建立されたことが分かります。再建時は飯薬師堂といわれ、国分村をはじめとして近郷の人々の合力によるもので、大工棟梁は亀山城下の紺屋町に住む木村藤四郎玄信によるものでした。
本堂は正面三間、側面三間の入母屋造で、棧瓦葺の妻入建物です。正面には唐破風造の向拝を付けて、身舎を二室として背面には下屋を付けるなど類例の少ない形式です。このことから、山門と鐘楼ともに亀岡市の指定文化財になっています。(文化資料館)



△国分寺本堂(千歳町)